

「研究公正に関するアンケート調査」 結果レポート

2022年3月

「改ざん」「盗用」に相当する（可能性の高い）行為については、問題であるという認識がひろく共有されているものの、「ギフト・オーサiership」や「二重投稿」に相当する（可能性の高い）行為については、問題についての認識がかならずしも十分に共有されていない。

近年、不適切なオーサiershipや二重投稿が問題になる事例が増えている状況を踏まえると、それらの問題についての教育・研修を強化することが必要である。

「改ざん」「盗用」に相当する可能性の高い行為

- ①「特定のデータを、その理由を明確に説明することなく、分析結果から除外すること」（問題あり 89 % / 問題なし 6 %）
- ⑨「共同研究者が取得・作成したデータ・資料等を、明確な許可をとることなく研究発表・論文等で利用すること」（問題あり 91 % / 問題なし 6 %）

ギフト・オーサiership、二重投稿に相当する可能性の高い行為

- ④「研究への関与の程度によらず、研究室のメンバーを、論文の共著者に入れること」（問題あり 77 % / 問題なし 11 %）
- ⑤「研究への関与の程度に寄らず、指導教員・研究室主宰者を、論文の共著者に入れること」（問題あり 71 % / 問題なし 16 %）
- ⑧「あるジャーナルに投稿し審査中の論文原稿と内容が大きく重なる原稿を、別のジャーナルにも投稿すること」（問題あり 79 % / 問題なし 16 %）

ここで、「問題あり」は、当該行為について「5」（非常に問題がある）ないし「4」と答えた回答者の割合であり、「問題なし」は「1」（まったく問題でない）ないし「2」と答えた回答者の割合である。また、ここでは、「分からない」という回答を除外した上で割合を算出している。

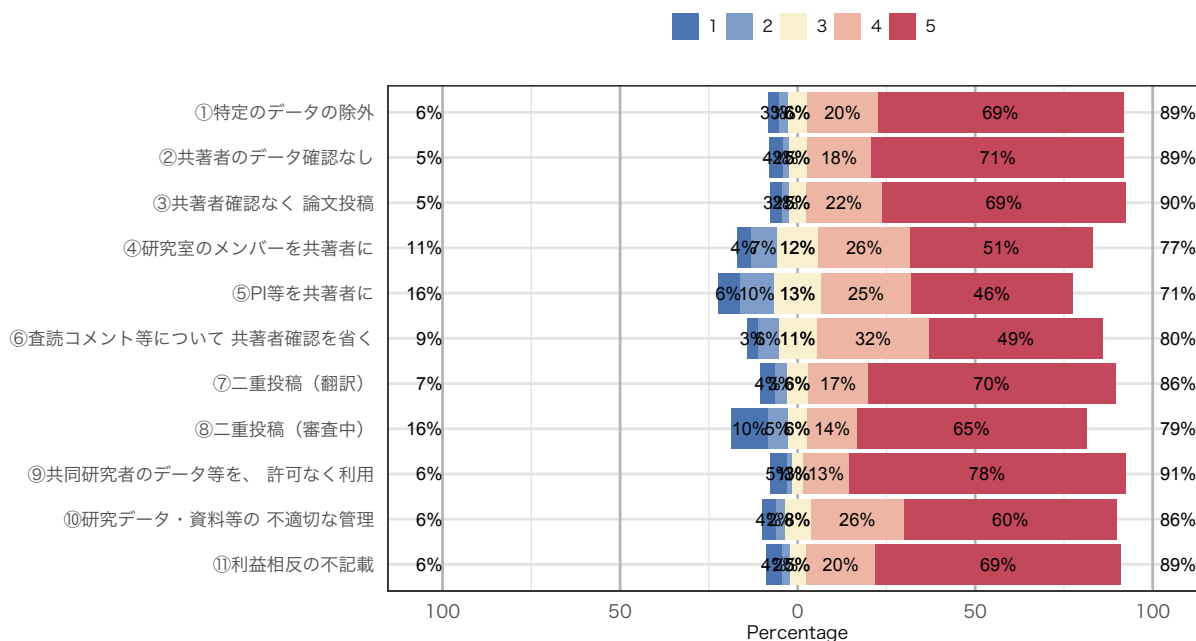


Figure 1: 好ましくない研究行為に関する認識; 「分からない」を除いたリッカートプロット図。

研究に関わる記録の作成・管理や、研究データ・資料等の保存・管理において、少なくない回答者が懸念を抱いており、また、ルールの周知が不十分でなく、問題が発生する可能性が相対的に高い。

回答者が関わる研究において、「今後5年以内に」起こりうる問題として、

④「実験ノート・研究ノート等，研究に関わる記録が不十分である」(起こりうる 22 % / 起こりえない 61 %)

⑪「研究データ・資料等の保存・管理が不適切である」(起こりうる 17 % / 起こりえない 68 %)

について、他の事項に比べて「起こりうる」と回答した者が相対的に多い。(Figure 2)

ここで、「起こりうる」は、当該行為について「5」(とても起こりうる)ないし「4」と答えた回答者の割合であり、「起こりえない」は「1」(まったく起こりえない)ないし「2」と答えた回答者の割合である。また、ここでは、「分からない・回答しない」という回答を除外した上で割合を算出している。

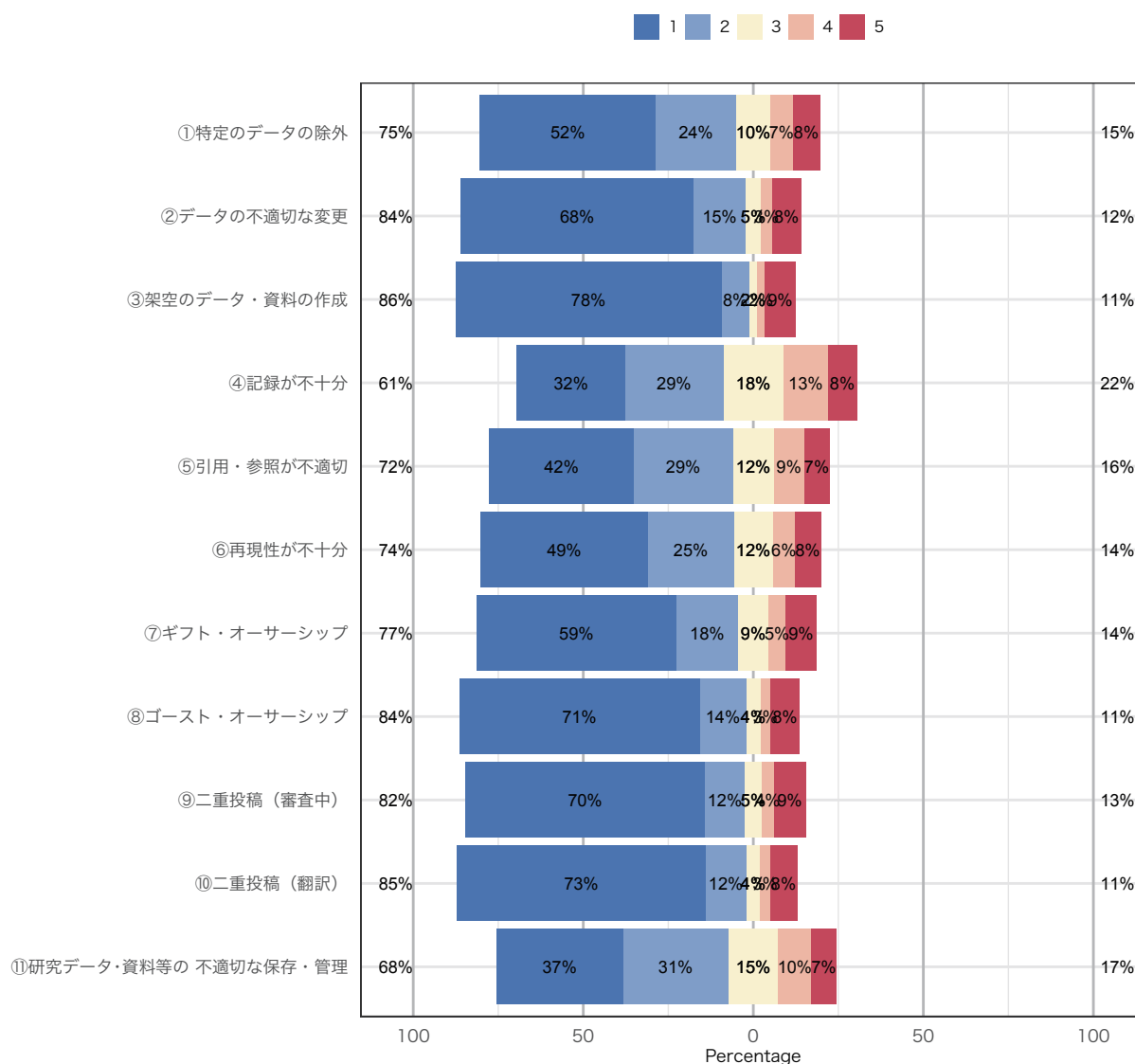


Figure 2: 問題行為の発生予測 (5年以内); 「分からない・回答しない」を除いたリッカートプロット図。

所属機関の研究データの保存・管理ルールについて、38.7%が「知らない」と回答(全体)。「知らない」という回答は、若手の方が多い (Figure 3).

- 教授・准教授相当…19.9%
- 講師・助教・スタッフ相当…31.9%
- 大学院生相当…48.3%

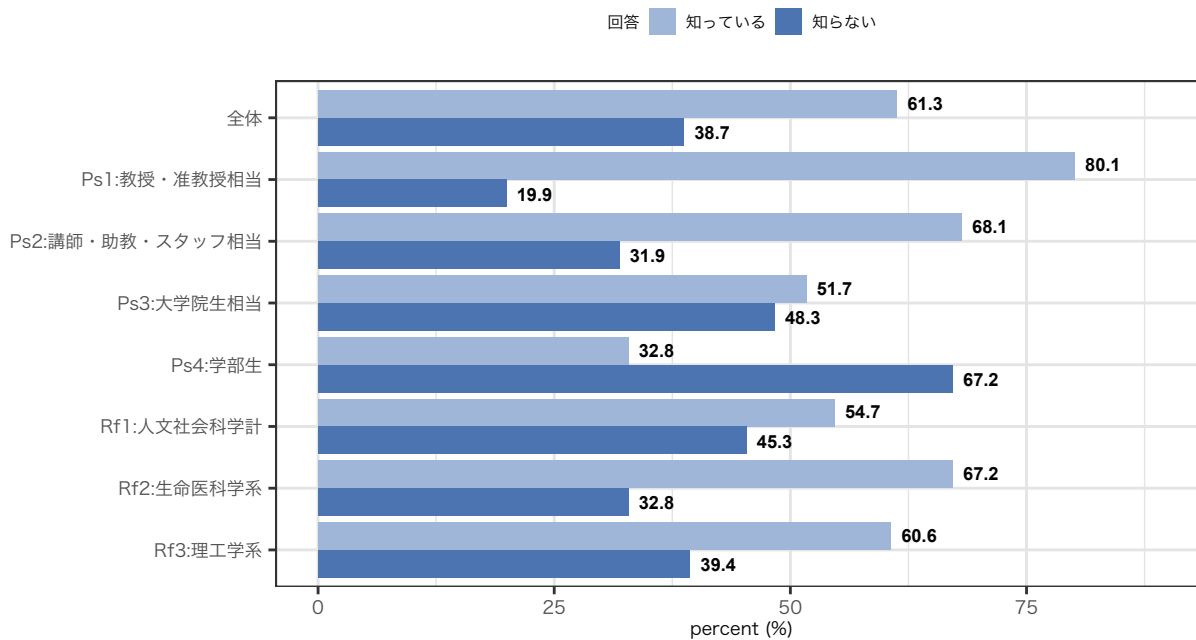


Figure 3: (4) 研究データの保存・管理に関するルールの存在.